

史 跡 斎 宮 跡

平成3年度現状変更緊急発掘調査報告

平成4年12月

明和町教育委員会

序

斎宮跡が昭和54年3月27日、国の史跡として指定を受けて平成5年には15周年を迎えようとしています。この節目にあたり、町といたしましては今秋、「斎宮跡シンポジウム」を開催し、平成5年には斎宮にちなんだ記念イベントを計画いたしております。

しかし、ここまで至るには地元地権者の方々のご理解、ご協力、調査を担当されてきました県教育委員会関係者の皆様の努力なしには語ることはできません。ふりかえりますと、斎宮跡はおよそ10年の節目をもって大きく前進してきました。昭和45年夏に古里地区で斎宮跡発見の契機となる貴重な遺物が発掘され、昭和54年には国史跡の指定を受け、平成元年秋には斎宮歴史博物館が開館し、斎宮跡の解明、公開、普及活動の体制が整い、ここを核として史跡環境整備も順次進められてきており、憩いの場として、また教育の場の一環として利用されてきています。

一方、その反面では137ヘクタールの史跡範囲と現代の生活が重複している特殊性から、日常生活に伴う現状変更もやむを得ず、その中でも事前調査として必要があるものは発掘調査を行い、その後報告書にまとめ、ささやかながら今後の斎宮跡解明の一資料として、広く活用いただければ幸いに存じます。最後になりましたが、発掘調査には地元の方々、近畿日本鉄道株式会社のご協力をいただきました。また発掘調査、遺物整理、報告書の執筆作成等にあたりましては斎宮歴史博物館調査研究課のご協力を賜りました。末筆ではありますが、深く感謝の意を表する次第であります。

平成4年12月

明和町教育委員会

教育長 世 古 博

例 言

1. 本書は、明和町教育委員会が平成3年度に実施した史跡斎宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。

なお、第89-2次の発掘調査は国庫及び県費の補助金の交付を受けて実施したものであり、第89-1・3次の調査は、原因者が費用を負担して実施したものである。

2. 調査は明和町教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館調査課及び明和町教育委員会斎宮跡対策課が担当した。

3. 発掘調査及び本書の作成には、斎宮歴史博物館調査課の吉水康夫、野原宏司、北島充生、大川勝宏、森田幸伸（平成4年度は明和町教委斎宮跡対策課）と明和町教育委員会斎宮跡対策課の中野敦夫があつたほか、森脇景子、赤岩 操、大滝靖子がこれを補佐した。

また、遺物整理には島村紀久子、角谷和代、鈴木美智子、奥田康子の協力を得た。

4. 遺構実測図、遺構表示などは、すべて斎宮歴史博物館刊行の発掘調査概報に準じている。

目 次

1. 前 言	1
2. 第89-1次調査	2
3. 第89-2次調査	4
4. 第89-3次調査	14
(付編) 史跡現状変更等許可申請	19

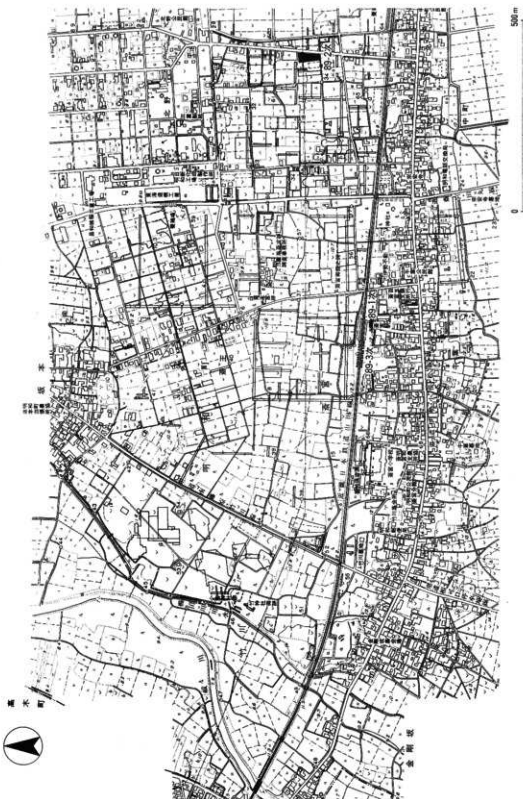
表・挿図目次

[表] 1. 史跡現状変更等許可申請の推移	1
2. 第89-2次調査 時期別遺構分類表	6
3. 掘立柱建物等一覧	17
4. 平成3年度現状変更等許可申請一覧	20

[図] 1. 平成3年度発掘調査箇所位置図 (1/10,000)	
2. 第89-1次調査 調査区位置図 (1/1,000)	2
3. 〃 遺構実測図 (1/200)	3
4. 第89-2次調査 調査区位置図 (1/1,000)	5
5. 〃 遺構実測図 (1/200)	7・8
6. 〃 出土遺物実測図	10
7. 〃 〃	11
8. 〃 〃	12
9. 第89-3次調査 遺構実測図 (1/200)	15-16

写真図版

1. 第89-1次調査	上：調査区全景（東から）	下：SD2520・6578（西から）
2. 第89-2次調査	上：北半区全景（南から）	下：南半区全景（北から）
3. 〃	上：SB6582～6585（南から）	下：SB6596（東から）
4. 〃	上：SB6592（東から）	下左：SA6580（北から）
5. 〃	上：SK6620～6622（南から）	下右：SD6600（東から）
6. 第89-3次調査	上：調査風景（西から）	下：調査区全景（南から）



第1図 発掘調査箇所位置図 (1:10,000)

1. 前 言

史跡跡内に500世帯を越える住民が居住する斎宮跡の保存にとって史跡現状変更の多いことは積年の問題であり、平成3年度も50件に及ぶ申請が提出された。そのうち三重県教育委員会が主体となり、史跡の実態解明を目的とする計画的発掘調査が6件（うち1件は平成3年度に実施）であり、残る44件のうち個人による盛土を内容とする申請にかかる1件と、史跡中央を東西に貫く近畿日本鉄道にかかる駅舎改築及びプラットホーム延伸についての3件で事前の発掘調査を実施した。

特に個人の申請にかかる第89-2次調査は、町道（通称：役場道）沿いの畑地に盛土を行うもので、申請面積である約1,200㎡について、国庫補助事業の対象としてそのほぼ全面を調査し、後述のとおり多大の成果を得ることができた。

一方、駅舎改築に伴う第89-1次調査では事業者である近畿日本鉄道の経費負担により、新駅舎の敷地に相当する約200㎡について調査を実施した。

また、プラットホーム延伸にかかる第89-3次調査はその調査地点が線路敷に近接するという条件から、安全対策のため列車の運行時間帯を避け、寒中の1月下旬に深夜の調査となった。限られた面積と投光機の下での制約された時間内での調査で、その成果は充分とは言えないが今後の斎宮跡の調査・保存にとって意義あるものと信じたい。

年 度	現 状 変 更 申 請 数	発 掘 調 査 件 数	調 査 面 積 (㎡)	補 助 金 事 業 調 査 件 数	補 助 金 事 業 調 査 面 積 (㎡)
S54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

2. 第89-1次調査(6 ADM-O)

調査場所 多気郡明和町斎宮字内山3043-5
原因 近鉄斎宮駅 駅舎改築
調査主体 明和町教育委員会
調査担当 斎宮歴史博物館
調査期間 平成4年1月6日～1月16日
調査面積 200㎡

1) はじめに

史跡を東西に貫く近鉄斎宮駅は、土地公有化を進め将来の史跡整備をめざす地域に隣接し、地域住民の通勤通学の足として、また史跡を訪れる人々の玄関口として利用されているところである。今回、従来の駅舎の老朽化に伴う改築に当たり、史跡らしいデザインにするとともに、事前の発掘調査に当たっても近畿日本鉄道K.K.の協力をいただいた。

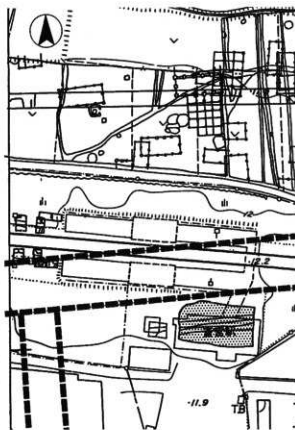
当該地周辺ではこれまでにホームの延伸(第31-10次調査)や駅便所の建て替え(第37-11次調査)に伴う小規模な発掘調査が行われ、溝・土坑等の遺構や遺物が確認されているところである。

2) 調査概要

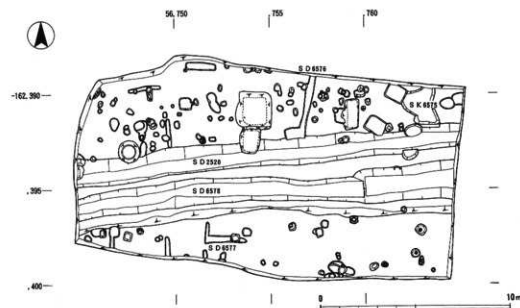
イ. 遺構 調査区のはほぼ中央を東西にのびる溝2条をはじめ小規模な溝や土坑のはか多数のビットを検出したが、掘立柱建物として確認するにはいたっていない。

SK 6575は調査区北東隅で検出した約2.0m×1.0mの不整形な土坑で遺物の出土量は少ないが奈良時代中期までさかのぼる可能性も考えられる。

一方、溝ではSD 6576は幅0.4mほどの小規模な溝で、南端はSD 2520により削



第2図 調査区位置図(1/1,000)



第3図 遺構実測図(1/200)

られていた。遺物は土師器の小片数点が出土しているのみであるが、とりあえず平安時代前期としておきたい。SD 2520は幅1.4m前後、深さ約0.4mの東西方向の溝で、既に便所の改築に伴う昭和56年度の第37-11次調査で平安時代後半の溝としてその延長部分が確認されているものである。今回の調査ではなお明確にはしがないが、平安時代末～鎌倉時代と考える。一方、SD 2520に並行して検出したSD 6578は上部を近世以降の掘削溝により削られ、その掘り下げ過程で遺構として確認した溝である。幅1.4m前後、周辺の遺構面からの深さ0.6m前後で調査区東部で一段と深くなる。掘削のため明確ではないが、鎌倉時代後半と考えられる。

その他、小規模なビットも多数検出しているが、掘立柱建物としては確認できなかった。

ロ. 遺物 全体に遺物の出土量は少なく、SD 2520及びSD 6578からの土師器と山茶碗片が目立つほか、緑釉陶器片の多いことが当調査区の特徴としてあげられる。大半が細片ながら調査に先立つ表土除去により出土したものも含め破片数は94点を数え、碗・皿のほか段皿や耳皿の断片も認められ、緑釉緑彩の小片や陰刻花文と思われる破片も各1点含まれる。

ハ. まとめ 斎王の森から東の地域では奈良時代後期から平安時代前期を中心とした方格地割の存することが明らかとなっている。これに対し、当調査区周辺ではその存否は必ずしも明確にはされていない。しかしながら今回の調査によるSD 2520及びSD 6578は史跡東部の方格地割に時期は大きく異なるものの、東西方向の区画溝にはほぼ合致する地点に相当し、今後の調査の進展によっては平安時代末期以降の地割に関連する可能性も考えられる。

一方、調査面積に比べて緑釉陶器片の出土量が多い点は第31-4次調査をはじめとするこの付近の特色としてあげられ、当該地域の斎宮における性格を考えるうえで示唆的である。

3. 第89-2次調査 (6 AGI-M)

調査場所 多気郡明和町斎宮字東加座2432-2他
原因 盛土工事
調査主体 明和町教育委員会
調査担当 斎宮歴史博物館
調査期間 平成4年1月20日～3月25日
調査面積 1,190㎡

1) はじめに

史跡斎宮跡の東側に近い字東加座地区では旧参宮街道沿いの集落から明和町役場に至る町道中町・役場・馬之上線が通り、地域の生活幹線道路となっている。このため当調査区の周辺では計画調査ばかりではなく、史跡現状変更に伴う緊急発掘調査も含め比較的調査の進んでいる地域で、今回の調査区の北側で昭和61年度にテニスコート新設に伴う事前調査として第64-7次調査を実施し、方格地割の東西道路とその北側溝を検出している。そのほか、当調査区の位置する区画に限っても、史跡指定に先立つ範囲確認調査として第9-6次調査や第14-3・4次調査を、史跡現状変更等に伴う事前調査として第22-2次調査、第31-7次調査及び第37-9・13次調査を、また計画調査として第29・62・69次調査等を行い、大型の掘立柱建物や井戸等を検出しているほか、方格地割の東限を確認するなど多くの成果を得ている。

これらの成果から今回の調査区が区画道路の南側に接し、比較的広い調査面積であり、当初からその進展が期待された。

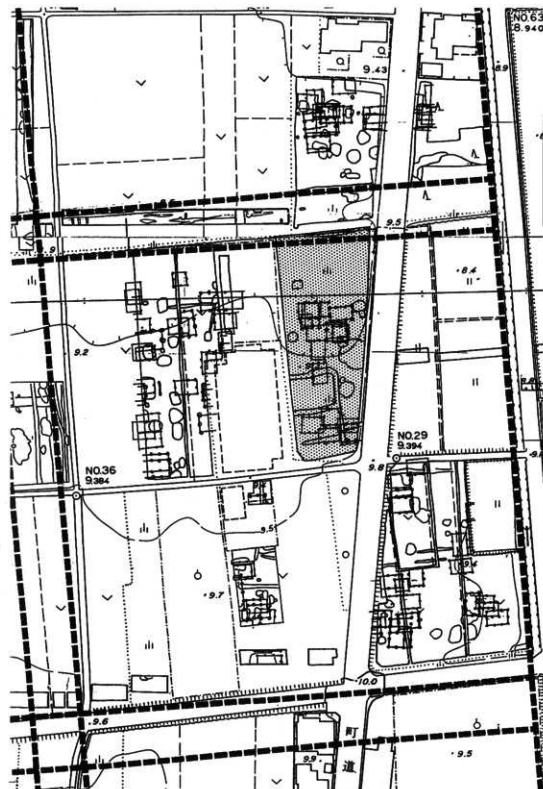
なお、調査にあたっては当該現状変更申請は畑地に盛土を行うことを内容とするものであるため、ほぼその全面を対象とすることが可能であり、周辺に排土置場を確保することが困難であることから、申請地を南北の2地区に分けて実施した。

2) 調査概要

調査の結果、19棟の掘立柱建物をはじめ奈良時代後期から鎌倉時代にわたる各種の遺構・遺物を検出した。

イ. 遺構 奈良時代後期の遺構には土坑4基がある。その位置・形状・規模とも様々で、これに伴う掘立柱建物やその他の遺構は検出できなかった。

平安時代初期と考えられる遺構には掘立柱建物2棟 (S B6582・6584) のほか土坑3基 (S K6614・6616・6619) がある。2棟の建物はその位置関係から併存するものではないが、いずれの柱穴も重複はせず、その前後関係は不明である。また、土坑はS K6614・6616の2基はそ



第4図 調査区位置図 (1:1,000)

れぞれ2.2m×1.5m前後の楕円形を呈するのに比べ、SK6619は2.8m×2.5mの方形を呈する。

平安時代前Ⅰ期の遺構では掘立柱建物6棟（SB6583・6585・6589・6593・6595・6596）や土坑7基（SK6612・6621・6622・6624～6627）、溝（SD6600）がある。掘立柱建物はいずれも3間×2間で、斎宮跡では中規模の柱掘形を持つ建物である。SB6585・6593の2棟が南北棟、他の4棟は東西棟であるが、それぞれの棟方向は様々である。

一方、調査区北辺で検出した溝（SD6600）は攪乱溝の底部で延長約25mにわたり検出したもので、残存幅0.7m前後である。この溝は当調査区の北側を東西に延びる方格地割の道路跡の南側溝に相当するものである。

平安時代前Ⅱ期の遺構には掘立柱建物7棟（SB6581・6586・6590～6592・6594・6599）と土坑6基（SK6611・6613・6617・6620・6623・6629）がある。掘立柱建物のうちSB6581及びSB6592が2間×2間、他の5棟は3間×2間である。また、棟方向が不揃いな当調査区の建物の中でもSB6599はE9°Nを示し異質である。

		遺 構 の 種 別				
		SA	SB	SK	SD	SE
奈良時代後期		—	—	6606・6607・6610・6628	—	—
平安時代	初 期	—	6582・6584	6614・6616・6619		
	前Ⅰ期	—	6583・6585・6589・6593 6595・6596	6612・6621・6622・6624 6625・6626・6627・(6618)	6600	—
	前Ⅱ期	(6579)	6581・6586・6590・6591 6592・6594・6599	6611・6613・6617・6620 6623・6629	—	—
	中 期	—	6588・6597・6598	—	—	6605
	後Ⅰ期	—	—	6609・6615	—	—
	後Ⅱ期	—	—	—	—	—
鎌倉時代		—	—	—	6603	—
不 明		6580	6587	6608	6604	—

（ ）は平安時代前期のなかで時期細分できなかったもの

第2表 第89—2次調査 時期別遺構分類表

599) と
3 6581 及
調査区の

	SE
	—
	—
	—
6605	—
	—
	—
	—

ったもの



第5図 第89-2次調査 遺構実測図(1/200)

平安時代中期の遺構では掘立柱建物3棟（S B 6588・6597・6598）と井戸（S E 6605）とがある。S B 6588は調査区中央で検出した2間×2間の建物であるが、S B 6597・6598の2棟は調査区南端で検出した3間×2間の東西棟である。また、S E 6605は上端で4.3m×3.6mの楕円形の掘形を示す井戸で、斎宮跡特有の地盤のため崩落の危険もあり十分な調査とはいえないが、遺構検出面から約4.2mで底に達し、曲げ物の底板等の加工木片の出土を見た。

平安時代後Ⅰ期の遺構では土坑2基（S K 6609・6615）がある。いずれも調査区中央で検出した径2.0m×1.5mの略楕円形の土坑である。

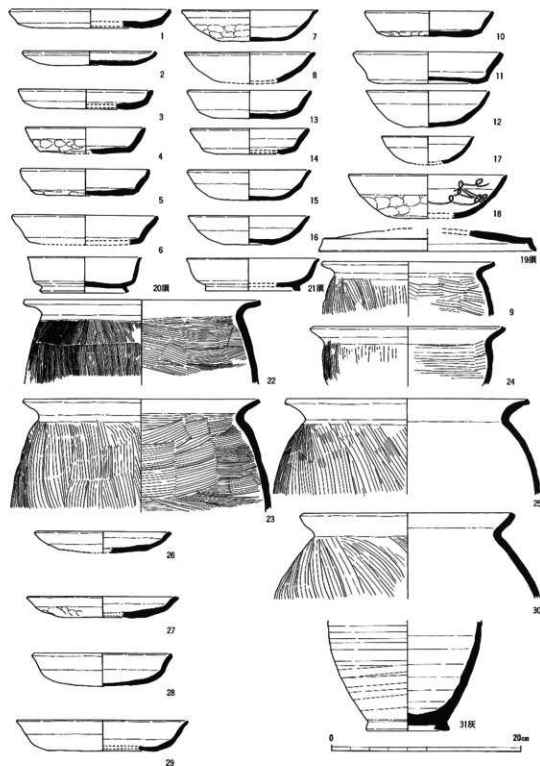
さらに鎌倉時代と考えられる遺構に溝（S D 6603）がある。幅1.2m前後の浅い溝で、調査区南半でL字状に検出したものである。時期不明のS D 6604等とともに何らかの区画する溝かとも考えられるが、これに伴う遺構は検出できなかった。

その他、時期不明の遺構として2間×2間の総柱建物（S B 6587）や東西に3間分の柱が並ぶものの建物として確認できなかったS A 6579、調査区西辺で不整形な小ピット群が南北に列をなして密集するS A 6580等があげられる。とくにS A 6580は方格地割の一区画においてそのほぼ中央線と合致する位置に相当し、各ピットの形状から生垣の根の痕跡と考えられる。同様の遺構は近鉄斎宮駅北側で実施した第93次調査でも検出されている。

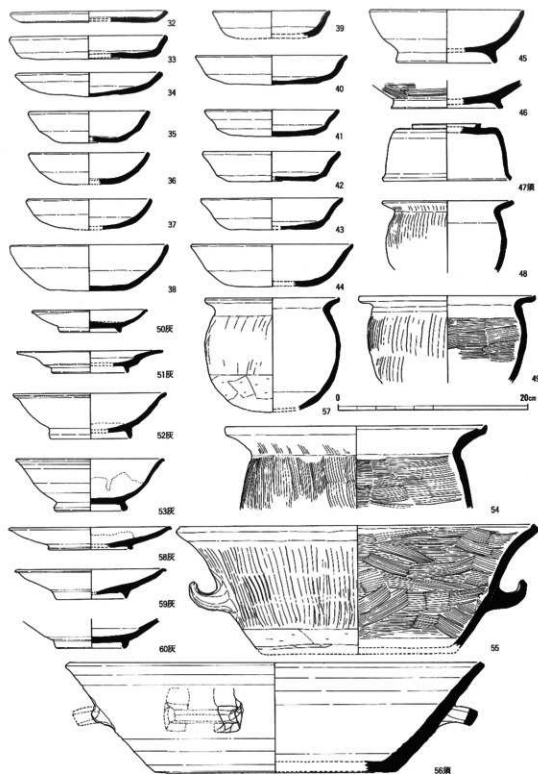
口、遺物 調査面積に比べて遺物の出土量は比較的少なく、また当該地周辺の土質の影響によるものか、特に土師器の遺存状態は極めて悪い。なかでもピットからの出土遺物は細片が殆どで、その量も少ない。しかし、奈良時代後期から平安時代前Ⅱ期にわたる土坑や平安時代中期の井戸であるS E 6605からの出土遺物は良好な資料といえよう。特にS E 6605では底まで達したものの安全のため周囲を掘り残しており、遺物の全てを収納し得ていないが、量は少ないものの木製遺物をはじめ平安時代中期のまとまった資料を得、有機質遺物の少ない斎宮跡にとって貴重な調査例といえよう。

一方、今回の調査による特殊遺物としては墨書土器や円面硯、風字硯、土馬、フイゴの羽口、緑釉陶器などがあげられる。墨書土器にはS E 6605出土の灰陶陶器碗底に「萬鏡」と思われるものがある。硯には円面硯、風字硯のほか小型円面硯の脚部かと思われる細片や須恵器底部の転用硯2点も含まれる。土馬は胴部の破片1点のみで、S D 6600上部の攪乱溝からの出土である。また、フイゴの羽口もいずれも小片ながら4点が出土している。緑釉陶器は9点が出土している。蛇の目高台の碗1点を除いていずれも細片であるが、S E 6605の出土品には陰刻花文が認められる。

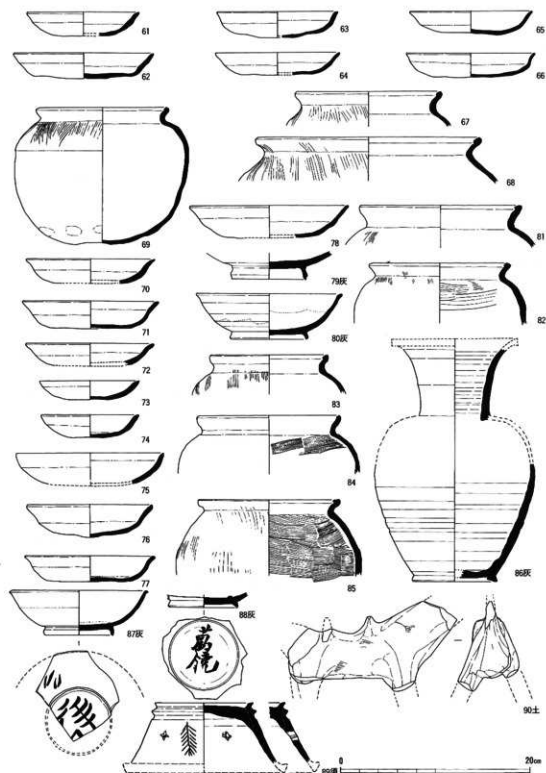
その他、今回の調査による出土遺物の特徴的な点のひとつとして製塩土器の多いことがあげられる。遺存状態の極めて悪い小片ばかりであるが、その出土地点は包含層・遺構を問わずほぼ調査区の全域にわたっており、特にS K 6620にはやや集中していることがうかがえる。



第6図 第89-2次 遺物実測図(1/4) SK6618: 1~9 SK6621: 10~12 SK6622: 13~18.24.25
SK6610: 19~23 SK6629: 26~31



第7図 第89-2次 遺物実測図(1/4) SK6620: 32~56 SK6611: 57~60



第8図 第89-2次 遺物実測図(1/4) SK6615: 61~68 SK6609: 69 SE6605: 70~86.88
SK6623: 87 包含層位: 89.90

ハ. まとめ

史跡に指定以後毎年50件前後の現状変更申請の出される斎宮跡においても1,000㎡を超える事前調査は稀で、史跡の保存にとって問題は多いものの、その成果については期待されるところも多かった。

調査の結果、甚だしく擾乱を受けているものの、当初の想定どおり方格地割の東西道路に伴う南側の側溝が検出できたほか、一部を除いてこれに接するエリアではほとんど遺構の存しないこれまでの調査成果に共通する傾向がここでも確認された。

今回検出した19棟に及ぶ掘立柱建物群はその大半が一辺60cm前後の斎宮では中規模の柱掘形を持つもので、そのうち推定を含め14棟までが3間×2間、他の5棟は2間×2間でS B 6587のみが総柱である。小面積ながら昭和56年度に当該地の南側隣接地で実施した現状変更に伴う第37-9次及び第37-13次調査で一辺1m近い柱掘形をもつ建物を断片的ながら検出しているのに比べその様相を異にする。

また、棟方向はやや不揃いなものもあるが12棟までが東西棟である。これらの建物群は概して2か所に集中していることがうかがえる。即ち調査区の中央部及び南端部の2か所で、区画道路の側溝から調査区の中央部の建物集中地域までの間隔と2か所の建物集中地域の間隔がいずれも16m前後とはほぼ等間隔であることから、当該区画内での占地や建物配置に一定の規格性のあることも想定される。

一方、S A 6580は調査区北西隅でその西辺に沿って、南北に延長約22mにわたって検出したものである。集中する小ピット群の形状は変則的ながらその埋土のほとんどは擾乱等を想定するものではなく、前述のような検出位置も考慮して生垣状の遺構を想定するものである。

斎宮跡の区画施設には、これまで方格地割に沿って一辺1m前後の大型柱掘形を持つ標列の所在が何か所かで知られているが、新たな区画施設の形態として今後の調査の実施や遺構の検討にとって重要な成果の一つと言える。

さらに、出土遺物の中で製土器の多い点が注目される。近年までの調査ではその数量的なデータは把握できていないが、当該地域の斎宮における性格・位置づけを考察していくうえで示唆的な資料である。

4. 第89-3次調査 (6 ADM-N・O)

調査場所	多気郡明和町斎宮宇内山3060-6他
原因	近鉄斎宮駅 ホーム延伸
調査主体	明和町教育委員会
調査担当	斎宮歴史博物館
調査期間	平成4年1月20日～1月24日
調査面積	160㎡ (2m×4m 20カ所)

1) はじめに

ホーム延伸を内容とする今回の現状変更と同様の原因による事前の発掘調査は昭和55年度にも第31-10次調査として行い、鎌倉時代の溝や平安時代から鎌倉時代の土壌を検出しているほか、前出の第89-1次調査や駅便所の改築に伴う第37-11次調査などが当該地で実施されている。

今回の調査区は線路敷に極めて近接しており、作業と列車運行の安全確保のため最終列車の通過後の深夜に限られた時間内で表土掘削・調査・養生等一連の作業を実施しなければならず、しかも寒中で、投光機の下での悪条件から不十分な調査とならざるを得なかった。

2) 調査概要

イ. 遺構 調査は基礎部分に相当する2m×4mのグリッドを計20カ所について実施した。いずれの地点でもその中央には線路敷裾のU字溝設置による攪乱が見られ、明瞭な遺構は少なかった。僅かに8カ所のグリッドで小規模なピットを散見したほか、遺物の出土量が少なく明確ではないが、G12で奈良時代後期の土壌ではないかと思われるSK6630、G14では平安時代前Ⅱ期の土壌と思われるSK6631が、G15では平安時代後Ⅱ期の小規模な溝SD6632が検出された。しかし、調査区が狭小であるうえ、前述の攪乱をうけているため、いずれもその規模や形状等は明らかにすることができなかった。

ロ. 遺物 全体に遺物の出土量は極めて少なく、SK6630から土師器の甕や皿の破片が出土しているほか、G20で土師器坏片や灰釉陶器碗片が若干出土している程度で、特筆すべき遺物も認められなかった。

ハ. まとめ 様々な制約から今回の調査ではとりあげるべき成果を得ることは出来なかったが、これまでの発掘調査の累積や現在に残る地割りから、当調査区は史跡東部から広がる方格地割の中央を東西に延びる区画道路敷にはほぼ合致する地点に当たると考えられる。若干の遺構・遺物は見られるものの、全体にその量が少ない点はこの想定を裏付けるものであり、今後の調査の進展によりその実態が一層明らかにされるための根拠になることを期待したい。

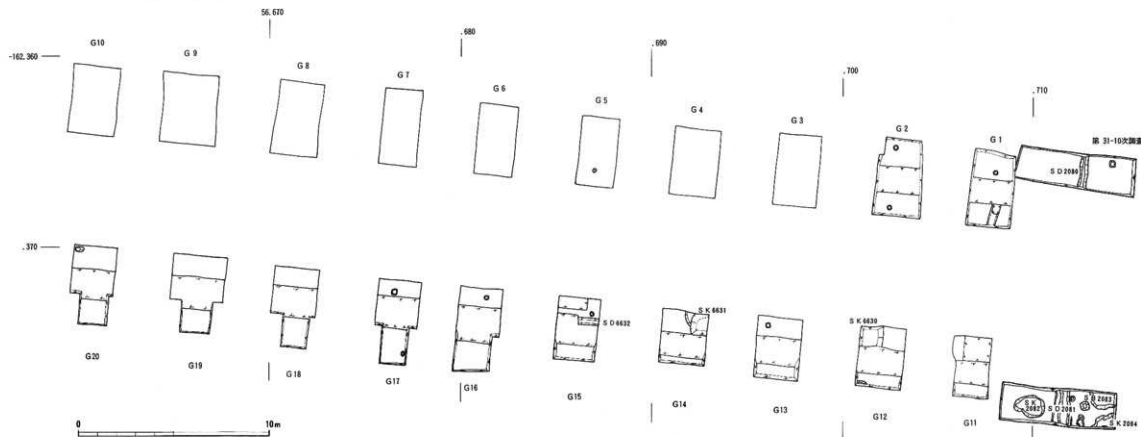


和55年度にも
ているほか、
れている。
最終列車の
ればならず、

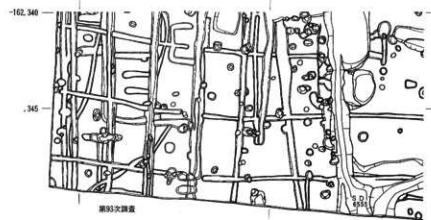
て実施した。
な遺構は少
量が少なく
では平安時
6632が検出
もその規模

の破片が出
筆すべき遺
出来なかつ
ら広がる方
若干の遺
あり、今後
たい。

第89-3次調査



第9図 第89-3次調査 遺構実測図 (1/200)



掘立柱建物等一覽表

遺構番号	規 模	棟 方 向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法(m)		時 期	備 考
					桁行	梁行		

第89-2次調査 (6 A G I - M)

SB6582	3 × 2	E 1° N	5.7	3.8	1.9	1.9	平安初期	S B 6585より古
SB6584	2 × 2	N 3° W	4.0	3.0	2.0	1.5	平安初期	S B 6585より古
SB6583	3 × 2	E 1° N	5.4	3.8	1.8	1.9	平安前Ⅰ期	S B 6587より古
SB6585	3 × 2	N 2° W	6.0	3.8	2.0	1.9	平安前Ⅰ期	
SB6589	3 × 2	E 1° N	5.7	3.8	1.9	1.9	平安前Ⅰ期	
SB6593	3 × 2	N 4° W	5.4	3.8	1.8	1.9	平安前Ⅰ期	
SB6595	3 × 2	E 0° W	6.0	3.8	2.0	1.9	平安前Ⅰ期	
SB6596	3 × 2	E 3° N	5.4	3.6	1.8	1.8	平安前Ⅰ期	
SB6586	3 × 2	E 4° N	6.0	3.4	2.0	1.7	平安前Ⅱ期	S B 6590より古
SB6581	2 × 2	E 0° W	3.6	3.6	1.8	1.8	平安前Ⅱ期	
SB6590	3 × 2	E 4° N	5.4	3.8	1.8	1.9	平安前Ⅱ期	S B 6588より古
SB6591	3 × 2	E 0° W	5.7	3.8	1.9	1.9	平安前Ⅱ期	S B 6590より古
SB6592	2 × 2	N 1° E	5.0	3.6	2.5	1.8	平安前Ⅱ期	S B 6581より古
SB6594	3 × 2	E 3° N	6.0	4.4	2.0	2.2	平安前Ⅱ期	S B 6597より古
SB6599	(3) × 2	E 9° N	(5.7)	3.6	1.9	1.8	平安前Ⅱ期	S B 6597より古
SA6579	3	E 0° W	5.7		1.9		平安前期	堀
SB6588	2 × 2	N 3° W	4.6	4.2	2.3	2.1	平安中期	
SB6597	3 × 2	E 0° W	5.4	3.4	1.8	1.7	平安中期	
SB6598	(3) × 2	E 3° N	(5.4)	4.2	1.8	2.1	平安中期	
SB6587	2 × 2	E 2° N	4.0	3.6	2.0	1.8	不明	総柱 S K 6607より新

遺構番号	規模	棟方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法(m) 桁行 梁行	時期	備考
------	----	-----	-----------	-----------	------------------	----	----

平成元年度第81-3次調査 (6 ADS-M)

SB5955	—×(1)	E 0° W	—	—	—	2.0	平安前期	
SB5956	(1)×2	E 3° N	(2.4)	5.0	2.4	2.5	平安前期	
SB5959	—×2	E 3° N	—	4.2	—	2.1	平安時代	
SB5960	4×2	E 3° N	8.8	4.2	2.2	2.1	平安後期	
SA5961	(2)	E 2° N	(3.6)	—	1.8	—	不明	

第81-6次調査 (6 ADD-F)

SB5973	(1)×(1)	N 25° E	(2.5)	(1.8)	2.5	1.8	奈良時代	
SB5974	—×(2)	E 5° N	—	(4.2)	—	2.1	不明	

平成2年度第85-4次調査 (6 ABE)

SB6266	5×(1)	E 23° S	10.0	(1.9)	1.8	1.9	平安末期	総柱 柱間不揃い
					2.3			

第85-6次調査 (6 AFH-B)

SB4190	3×2	N 1° W	5.7	4.0	1.9	2.0	平安前Ⅱ期	
SB4191	2×2	N 1° W	4.2	4.0	2.1	2.0	〃	
SB4192	5×2	E 1° N	9.0	4.2	1.8	2.1	平安後Ⅰ期	
SB4193	5×2	E 0° W	10.5	3.4	2.1	1.7	平安初期	
SA4202	3	E 1° S	6.0	—	2.0	—	平安前Ⅰ期	

第85-8次調査 (6 ABI-N)

SB6278	—×(2)	N 26° E	—	(2.6)	—	1.3	不明	総柱
SB6279	(2)×3	N 33° E	(2.6)	4.2	1.3	1.4	飛鳥時代?	柱間不揃い
SA6280	(7)	N 33° E	(14.7)	—	2.1	—	飛鳥時代	
SB6281	—×2	N 29° E	—	5.0	—	2.5	不明	
SB6290	(1)×3	N 1° W	(2.0)	5.1	2.0	1.7	〃	総柱
SB6292	(1)×2	N 29° E	(2.4)	4.4	2.4	2.2	〃	
SB6301	(2)×3	N 23° E	(3.0)	4.2	1.5	1.4	〃	総柱

付. 史跡 現状変更等許可申請

平成3年度の斎宮跡にかかわる史跡現状変更等許可申請は、50件が提出された。このうち計画発掘調査6件のほか、3件について事前の発掘調査を実施している。計画発掘調査を除いてこれら現状変更の掘削に当たっては斎宮歴史博物館並びに明和町教育委員会職員の立ち会いを条件として許可を得ていることから、各申請者からの連絡によりこれを実施している。

なお、以下に各現状変更について (A) 個人等による申請、(B) 公共機関等による地域生活環境整備に伴う申請、(C) 史跡環境整備及び維持管理に伴う申請、(D) 計画的発掘調査のための申請に分けて若干ふれておきたい。

(A) 個人等による申請

史跡内住民をはじめとする個人等による申請は23件あり、そのうち住宅や農業用倉庫の増築が9件、同じくその改築が9件出されているがいずれも保存管理計画における土地利用区分のうえで第4種地区に相当し、事前の発掘調査を実施するには至っていない。

その他、地元竹神社の修理改築や竹川地区の農地における水路のU字溝の設置、資材置場への便所設置等が含まれる。また、農地への盛土を内容とする申請が2件含まれているが、いずれも第2種地区に含まれることから1件は前述の第89-2次調査とし、もう1件は平成4年度に発掘調査を実施した。

(B) 公共機関等による地域生活環境整備に伴う申請

明和町による道路や排水路の整備等公共事業が8件、近鉄によるその維持・管理等にかかるものが4件、NTTによる電柱立替えが1件、県土木部による蔵川の改修1件の計14件がある。このうち駅舎改築とホームの延伸については前述のとおり第89-1次及び第89-3次調査を実施している。

(C) 史跡環境整備及び維持管理に伴う申請

史跡の活用にかかわる案内標識の設置や植栽、その維持管理のための施設設置等について7件の申請が出されている。

(D) 計画的発掘調査のための申請

これは三重県教育委員会が主体となり、斎宮歴史博物館が担当して実施する史跡の実態解明のための調査で6件の申請が出されているが、平成3年度分は内5件3,984㎡で1件は次年度の調査(第95次調査)分である。

その他、地元不動産会社による宅地造成計画を内容とする申請が1件出されており、今後史跡の保存にとって、検討すべき重要な課題を提示することとなっている。

現況変更等許可申請一覧表

申請地	種類	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1 斎宮宇西加座2680他	D	三重県教育委員会	計画免調査	3.4.5	3.4.16	1,420㎡	2	第90次調査
2 斎宮宇西2994-1	A	森下幸太郎	個人住宅改築	3.5.23	3.7.8	111.14㎡	4	
3 竹川宇中垣内393他	D	三重県教育委員会	計画免調査	3.6.14	3.7.11	624㎡	1	第91次調査
4 竹川宇中垣内460-3	A	水谷和人	個人住宅改築	3.6.10	3.8.3	111.04㎡	4	
5 斎宮宇北野3553他	A	梅井精	個人住宅改築	3.6.10	3.7.24	25.65㎡	4	
6 斎宮宇西加座2773-1	A	梅井国太郎	個人住宅改築	3.6.24	3.7.29	14.00㎡	4	
7 斎宮宇牛車2993	A	森本陽泰	個人住宅改築	3.6.24	3.7.24	28.98㎡	4	
8 斎宮宇東加座2431他	A	北村純一	土 産	3.6.26	手続中	1,363㎡	2	第89-2次調査
9 斎宮宇殿治山2734他	D	三重県教育委員会	計画免調査	3.7.17	3.8.9	220㎡	2	第92次調査
10 斎宮宇西加座2681-6	A	山中敏弘	個人住宅改築	3.7.16	3.7.25	46.79㎡	4	
11 斎宮地内	B	明和町(水道課)	上水道事業	3.8.5	3.9.25	L=2,936m	-	
12 斎宮宇内山3045他	D	三重県教育委員会	計画免調査	3.9.9	3.10.17	1,500㎡	1	第93次調査
13 斎宮宇内山3045他	B	近畿日本鉄道K.K.	駅ホーム延伸	3.9.4	3.10.30	L=48m×2	4	第89-3次調査
14 斎宮宇東殿2875-3	A	森西信夫	個人住宅改築	3.9.9	3.10.4	66.25㎡	4	
15 竹川宇坂戸734他	B	三重県(土木部)	河川護岸改修	3.9.9	3.11.11	L=37m	3	
16 斎宮宇牛車3014-5	A	小林順一	個人住宅改築	3.9.13	3.11.11	96.33㎡	4	
17 斎宮宇龍川1058-2	A	川合修一	個人住宅改築	3.9.17	3.10.4	43.02㎡	4	
18 斎宮宇内山3043-3	B	近畿日本鉄道K.K.	駅舎改築	3.9.17	4.2.7	136㎡	4	第89-1次調査
19 斎宮宇内山3043-3	B	近畿日本鉄道K.K.	仮設駅舎設置	3.9.26	3.11.27	47.45㎡	4	
20 斎宮宇牛車3032-1	A	澄野 南	農業倉庫改築	3.10.2	3.12.3	80.48㎡	4	
21 斎宮宇中西600	B	明和町(総務課)	消防庫改築	3.9.30	3.10.25	10.40㎡	4	
22 斎宮宇東加座地内	B	明和町(教委)	道路簡易舗装	3.10.5	3.10.25	L=250m	2	
23 斎宮宇内山3068-3他	B	明和町(教委)	道路拡幅	3.10.5	4.1.6	L=154m	-	
24 斎宮地内	B	明和町(教委)	河川清溝改修	3.10.8	3.12.2	L=273.4m	1	
25 斎宮宇東前沖地内	B	明和町(建設課)	可通橋新設	3.10.8	3.10.25	L=94m	-	
26 斎宮宇牛車324	A	永島 尚	個人住宅改築	3.10.18	3.12.5	176.9㎡	4	
27 斎宮宇新館2942他	D	三重県教育委員会	計画免調査	3.10.23	3.12.3	220㎡	1	第94次調査
28 斎宮宇苗川2556-3他	A	北村伊左雄	個人住宅改築	3.10.31	3.11.25	16.56㎡	4	
29 斎宮宇牛車地内	B	明和町(建設課)	可通橋新設	3.11.18	3.12.6	L=71.5m	-	
30 斎宮宇628他	C	明和町(産業振興課)	観光案内標識	3.11.19	3.12.6	-	-	

申請地	種類	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
31 斎宮宇373	A	浅尾 守	個人住宅増築	3.11.26	3.12.12	49.14㎡	4	
32 斎宮宇321-2	A	澄野 久生	農業倉庫改築	3.11.28	3.12.12	40.93㎡	4	
33 斎宮宇西前沖2604-1	A	K.K. 村田組	便所の設置	4.1.10	4.1.24	5.76㎡	4	
34 斎宮宇内山3043-3他	B	近畿日本鉄道K.K.	ネットワース設置	4.1.14	4.1.24	-	-	
35 斎宮宇牛車2757-2	A	竹 神 社	神社修繕改築	4.1.6	4.2.10	61.15㎡	4	
36 斎宮宇西前沖地内	B	明和町(教委)	道路簡易舗装	4.1.28	4.2.10	L=98m	-	
37 竹川地内	A	竹川地区	U字溝設置	4.2.13	4.3.3	L=122.7m	3	
38 竹川宇東殿273	A	辻 孝雄	個人住宅増築	4.2.13	4.3.3	53.11㎡	4	
39 竹川宇古里503	C	斎宮歴史博物館	館周辺の植栽	4.2.2	4.3.3	-	3	
40 斎宮宇23474	A	丸山理左右	盛 土	4.2.29	手続中	320㎡	2	
41 竹川宇花間660-4	A	加藤政次	個人住宅増築	4.3.2	4.3.9	33.83㎡	4	
42 斎宮宇内山3046-1他	D	三重県教育委員会	計画免調査	4.3.9	4.4.9	1,200㎡	1	第95次調査
43 斎宮宇内山地内	B	N T T	電柱立替え	4.2.25	4.3.9	-	-	
44 竹川地内	C	明和町(教委)	植 栽	4.3.10	4.3.19	L=45m	1	
45 斎宮宇牛車570	A	谷口正直	個人住宅改築	4.3.19	手続中	75.72㎡	4	
46 竹川宇354-6	A	清水 忠	個人住宅増築	4.3.26	4.4.18	29.16㎡	4	
47 斎宮宇3068-1	C	明和町(教委)	植栽(桜)	4.3.27	4.4.18	80㎡	1	
48 斎宮宇3129-1	C	明和町(教委)	管理用戸設置	4.3.27	4.4.18	-	1	
49 斎宮宇3068-1他	C	明和町(教委)	仮収納庫設置	4.3.27	4.4.18	27.88㎡	4	
50 斎宮宇法道3382-1他	B	平成商事株式会社	宅地造成	4.3.30	手続中	2,944㎡	3	

圖

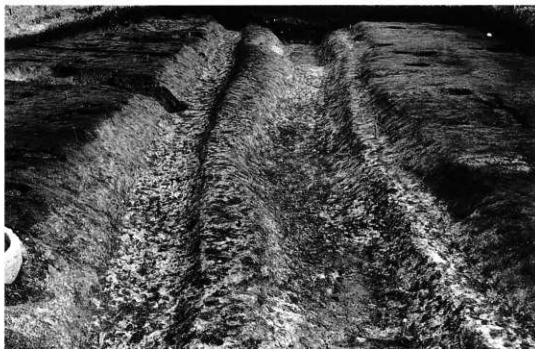
版

PL1

第89-1次調査



調査区全景 (東から)



S D 2520・6578 (西から)

第89-2次調査

PL2



北半区全景 (南から)



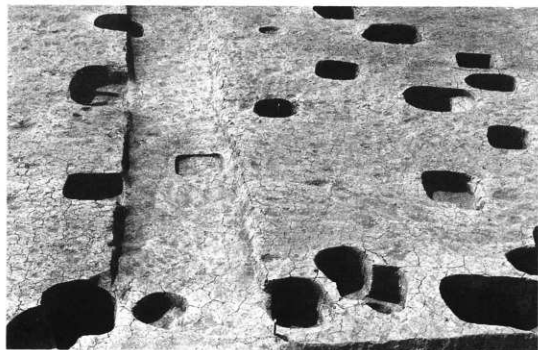
南半区全景 (北から)

P L 3

第89-2次調査



S B 6582~6585 (南から)



S B 6596 (東から)

第89-2次調査

P L 4



S B 6592 (東から)



S A 6580 (北から)



S D 6600 (東から)

P L 5

第89-2次調査



S K 6620~6622 (南から)



S E 6605 (西から)

第89-3次調査

P L 6



作業風景 (西から)



No.12グリッド (南から)

史跡 齋宮跡
平成3年度現状変更緊急発掘調査報告

平成 4 年 12 月

編 集	齋宮歴史博物館 明和町教育委員会
発 行	明和町教育委員会
印 刷	光出版印刷株式会社
